

● STORY 07 怪傑！指導要綱！！

登場人物

米垣さん（27歳）、寺多さん（61歳）

収穫の秋。豊かな山の幸、海の幸が胃袋を満たしてくれる季節だ。

米垣はというと、そんな秋の恩恵とは縁がなく、仕事に追われる毎日を過ごしていた。

高杉部長（以下、高）：米垣くん。ちょっと来てくれるか。

米垣（以下、米）：はい。为什么呢。

高：お前が入社して半年、そろそろ事業を任せてみようと思う。今、計画している蟻賀町での宅地分譲事業は、お前が担当や。がんばれよ！

米：わかりました。任せてください。失礼します！！



初めての担当を言い渡された後も、日々と変わらぬ業務をこなし家路についた米垣だが、秋の涼やかな風に吹かれたことが原因なのか、昼間のやり取りを思い出し急に不安に襲われた。果たして、自分はしっかりと事業を進めることができるのだろうか。

そうこうしながら、家に帰り着くと、寺多のおじさんが遊びに来ており、ご機嫌で酒を酌み交わしていた。

寺：おお！元気か！

米：お久しぶりです。おかげ様で、なんとかやっています。



寺：そら、良かった。今、聞いたけど、転職したらしいな。
頑張ってるか？

米：はい。今日、宅地分譲事業を、初めて任せてもらえることになりました。

寺：そうかあ！良かったなあ。頑張れよ！わしも最近なにかと、まちづくりに縁があってなあ。なんやかんやと知識が増えると、まちづくりも面白いもんやと思ってきた。まあ、わけのわからん専門用語も多いし、手続きも複雑やから、わからんときは、市役所に行って聞いたらいいいわ。良かったら、わしの知っている職員教えたるしな。

米：本当ですか！いや、ちょうど本当に一人で担当できるか不安になっていたんですよ。

寺：そうかあ、ほな、明日でも一緒に市役所に行こうか。

米：ありがとうございます。

次の日、米垣と寺多の姿は、市役所にあった。

寺：職員くん！元気かあ！

職：あっ、寺多さん、今日はなんですか？

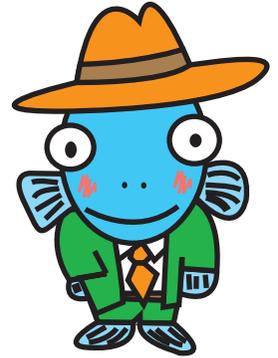
寺：いや、今日はわしじゃなくて、甥が主役や。わしはただの付き添い。

米：今度、蟻賀町で、宅地分譲事業を計画しているんですけど、初めてなもんで教えてもらえますか？

職：はい、どうぞ。では、まず、開発事業指導要綱って知っていますか？

米：いや、聞いたことないですね。

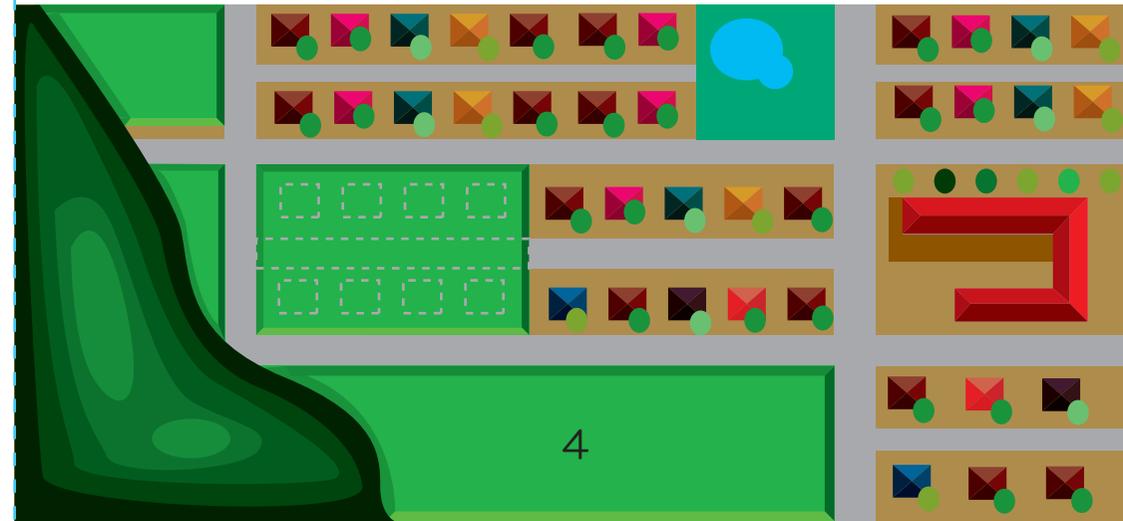
オットく〜ん！



開発事業指導要綱とは！？

まかせてちょうだい！

開発事業指導要綱は、田んぼや畑などを宅地にするなど、一定の開発を行う事業者などに対して、道路や公園、保育所及び学校などの公共施設を整備することや地域に見合ったまちづくりをするためのルールを都市計画法に基づき独自にまとめたものです。言わばまちづくりの進め方や事業を進めるにあたっての基準などを載せた説明書みたいなものです。



米：説明書がなければ、方向性が定めることができないので、なかなか進めることは難しいですね。親切な説明書なんです。

寺：前から疑問に思ってたんじゃが、**都市計画法**とはなんなのや？

職：ここは私が説明しましょう。

文字から意味を判断できますが、都市計画とは、将来のまちを創るための計画です。みんながすき勝手に建物などを建てたり、道路を作ったりすると、機能をうまく発揮できなかったり、また逆に必要な施設がなかったりと、アンバランスなまちになってしまいます。建物や道路などは一度造ると取り壊したり、配置を変えたりすることは難しいので、バランスの取れたまちをつくるための基本的なこと（道路や公園・上下水道などの基本的なあり方）を定め、制限しているのが都市計画法なんです。



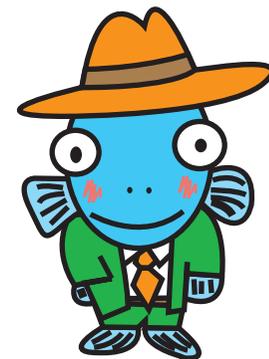
米：なるほど。みんなが都市計画法と開発指導要綱を守れば、きれいなまちができあがっていきますよね。

寺：その都市計画法と開発指導要綱の違いと関係はなんや？

都市計画法とは！？

都市計画法は法律です。人々が快適に暮らすうえで法律は欠かせないもので、例えば、自動車を運転するときに、左側走行をしていますよね？当たり前のように思っているかもしれませんが、これは法律で自動車は左側走行をしなければならないと規定されているのです。また、自動車を安全に走行するために、最高速度が定められているように、法律にはたくさんの基準などが明記されているのですが、すべてのことを網羅しているわけではありません。

都市計画法も同じように法律に全て明記されているわけではありませんので、開発指導要綱により、不足する部分を補っているのです。他にも地域に見合った特色のあるまちづくりを行うための基準も定められています。



寺：なるほど。都市計画法にとって、開発指導要綱というのはなくてはならない存在やな。いわば漫才のボケとつっこみみたいなもんやな。

米：……。それは違うような気がする……

市役所からの帰り、米垣さんは寺多さんに誘われ最寄のデパートに立ち寄った。着いた先はネクタイ売り場。

寺：朝からずっと気になってたんやけど、お前が着けているガラガラヘビのネクタイ。一体どんなセンスしとんねん。それでは、できる男には見えんぞ。俺みたいに上品なネクタイをつけなあかん！俺がバシッと選んだる！

米：ええ～、そんなダサ、いや、地味なネクタイですか？まあ、おじさんがプレゼントしてくれるなら、喜んでしますよ！

寺：誰がプレゼントすると言った。お前の好感度を上げるためのアイテムやぞ！いわばお前をできる男にするための人間開発指導や！未来の自分に投資するんやから、自分で出さなあかん！

米：ええ～そんなん……。

寺多さんは、僕にとって怪傑指導要綱かと思いながら、カードを出す米垣さんでした。

寺多さんの見事なフォローにより、米垣さんの心配事は、無事に怪傑！！

次回、STORY8 建築確認の思いやり！！
乞うご期待♪